

高梁市総合計画・前期基本計画
(第2期 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略)
施策の進捗状況

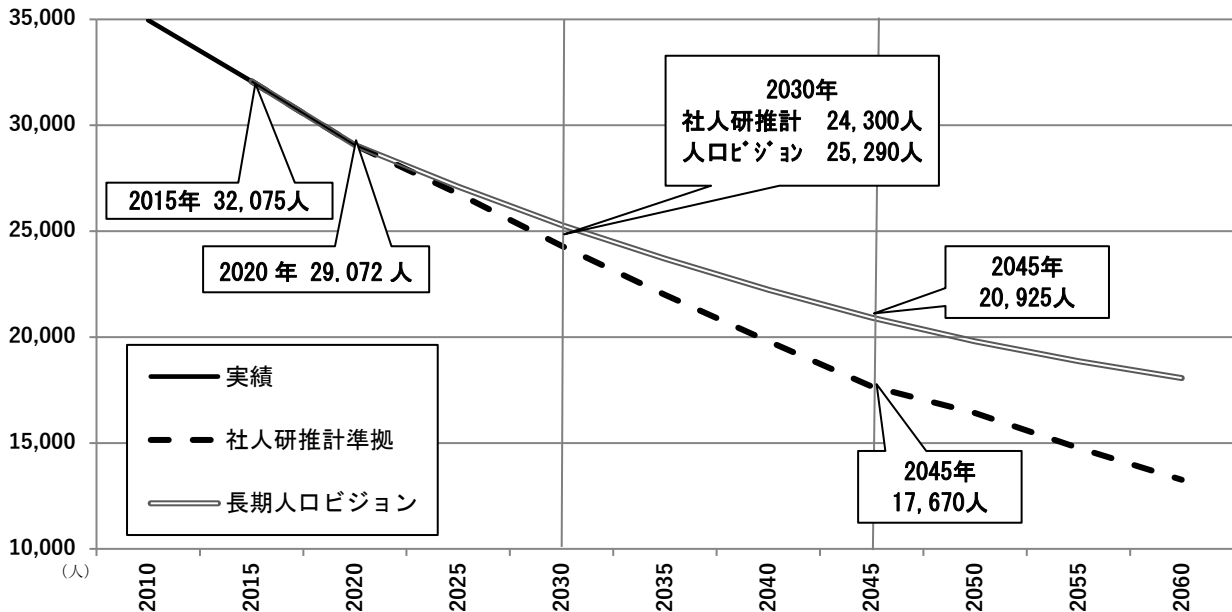
令和5年9月
高 梁 市

目次

1. 長期人口ビジョン達成に向けた基本目標の状況.....	1
2. 各施策の進捗状況（施策マネジメントより）.....	2
基本方針1 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち	
政策1 地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます	
施策1 農林水産業の振興.....	2
施策2 農山村の振興.....	3
施策3 商工業の振興.....	4
施策4 新たな産業の創出と雇用環境の充実.....	5
政策2 観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます	
施策1 観光の振興.....	6
基本方針2 美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち	
政策1 自然を守り環境にやさしいまちづくりを進めます	
施策1 環境保全対策の推進.....	8
施策2 循環型社会の形成.....	8
政策2 安心・安全なまちづくりを進めます	
施策1 生活安全対策の充実.....	10
政策3 都市機能の維持と快適な住環境の整備を進めます	
施策1 都市機能の維持・確保.....	11
施策2 公共交通手段の確保.....	12
施策3 社会インフラの充実.....	12
基本方針3 心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち	
政策1 健康で心豊かに暮らせる環境を整えます	
施策1 健康づくりの推進.....	14
施策2 地域包括ケアシステムの推進.....	15
施策3 地域医療体制の充実.....	16
施策4 感染症対策の推進.....	17
政策2 安心して子どもが生まれ育つことができる環境を整えます	
施策1 子育て支援の充実.....	18
政策3 みんなで支え合い助け合う地域福祉活動を進めます	
施策1 障害者（児）福祉の充実.....	20
施策2 高齢者福祉の充実.....	20
施策3 地域福祉活動の推進.....	21
基本方針4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち	
政策1 心身ともにたくましい子どもが育つ学校教育を進めます	
施策1 学校教育の充実.....	22
施策2 教育体制・環境の整備.....	23
政策2 生涯学習の機会を広げ文化・スポーツの振興を図ります	
施策1 生涯学習の推進.....	25
施策2 文化財の保存と活用.....	26
施策3 スポーツの振興.....	27
政策3 人権を大切にする共生のまちづくりを進めます	
施策1 人権尊重・男女共同参画社会の実現.....	29
施策2 多文化共生社会の実現.....	29
基本方針5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち	
政策1 市民が主役のまちづくりを進めます	
施策1 市民が主役のまちづくりの推進.....	31
施策2 公聴広報の推進.....	31
政策2 産学官民連携のまちづくりを進めます	
施策1 学園文化都市づくりの推進.....	33
政策3 持続可能な行財政運営を行います	
施策1 時代に対応した行政経営の確立.....	34
横断的政策1 人口減少対策に取り組みます	
施策1 移住・定住の促進.....	35
横断的政策2 災害に強いまちをつくります	
施策1 防災対策の強化.....	37
横断的政策3 未来革新技術を活用します	
施策1 Society5.0の推進.....	40

1. 長期人口ビジョン達成に向けた基本目標の状況

【長期人口ビジョン】



【長期人口ビジョン実現の前提条件】

- ①合計特殊出生率が徐々に向上し、2030年以降に国の長期ビジョンと同水準となる。
(2030年：1.8 2040年2.07)
- ②転出超過となっている社会動態が徐々に改善し、2025年以降に均衡する。
(転入・転出の差がゼロとなる)

【長期人口ビジョン達成に向けた基本目標】

指標	現状値	実績値	目標値
人口の社会増減 (転入者－転出者)	H27～R1 平均値 ▲163人/年	令和4年 ▲415人/年	R3～R7 年平均値 ▲79人/年

※岡山県毎月流動人口調査（年報）より

指標	現状値	実績値	目標値
年少人口（0～14歳）の割合	令和元年 9.1%	令和4年 8.3%	令和7年 9.2%

※岡山県毎月流動人口調査（年報）より

【要因分析】

令和4年における人口の社会動態は、過去10年間で最も多い転出超過であった前年度（▲349人/年）をさらに上回る数値となった。吉備国際大学の入学者の減少（順正高等看護福祉専門学校の募集停止等）が大きな要因と推測するが、新型コロナウイルス感染症の影響による人流の抑制、外国人の入国制限等により、県外・国外からの転入が大きく減少している状況にある。また、転出数についても横ばい状態にあり、若い世代の流出に歯止めがかかっていない。

2. 各施策の進捗状況（施策マネジメントより）

基本方針 1 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち

政策 1 地域産業の振興と安心して働ける環境づくりを進めます

施策 1 農林水産業の振興

1 市内産農林水産物の消費拡大に努めます

農地と耕作者のデータを集約し、高梁市全域において、人・農地プランを実質化した。現在「地域計画」の策定に向けて地域での話し合いを推進しており、農業上の利用が行われる地区を整理し、新規就農者の確保、農地の集積・集約化を進めるとともに、ぶどう・トマト等の主要農産物や地域で消費される農産物の供給力を強化していく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
農産物直売所の販売額	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	494 百万円	496 百万円	545 百万円
ぶどう販売額	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	1,007 百万円	1,197 百万円	1,107 百万円
トマト販売額	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	356 百万円	359 百万円	391 百万円

2 農林業の持続的な発展をめざします

就農フェアなどへ積極的に参加し、新規就農者の確保に努める。新規就農者にとって農地の確保は大きな課題であるため、湯野地域のほ場を整備し、8 区画中 6 区画の耕作者の確保が急務となっている。また、農地と合わせと住居の確保も必要であり、住もうよ高梁推進課と連携しながら空き家の掘り起こしや地域と一体になり推進していく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
新規就農者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	9 人	9 人	45 人 (令和3年度からの累計)
担い手への農地集積率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	20%	14%	43%

施策2 農山村の振興

1 農山村の活性化を図ります

農地の多面的機能を十分に発揮させ、荒廃農地の発生防止・解消に向け日本型直接支払交付金制度（中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払交付金制度など）を活用しているが、高齢化等による継続困難なことが課題となっている。継続して農地の維持をするため、多面的機能支払交付金の広域化組織の立ち上げや、中山間地域等直接支払制度の代表者説明会などを行い、農地の維持を進めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
中山間地域等直接支払制度対象農地	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	854ha	874ha	888ha
多面的機能支払制度対象農地	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	269ha	229ha	279ha

2 森林の保全と有効活用を図ります

令和6年から事業者による木質バイオマス発電所が稼働することに伴い、市として森林整備、森林資源の活用、再生可能エネルギーの導入といった多角的な観点から支援をしていく。県内の新見市、真庭市の成功事例を参考に、事業者への事業推進支援及びバイオマスの安定供給体制を構築していく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
里山林整備事業補助金	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	0.2ha	0.4ha	2.0ha
造林作業路新設事業補助金	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	600m	300m	900m

3 有害鳥獣被害防止対策の充実を図ります

重点支援として国・県と連携し有害鳥獣対策を進めてきたことにより、近年の農業への被害額減少につながり成果が発揮できている。引き続き、支援を行うことで被害件数の増加の防止となり、地域の農業者の農業意欲の維持、農業所得の向上につなげていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
有害鳥獣捕獲頭数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	野猪 2,405頭/年	野猪 2,943頭/年	野猪 2,700頭/年
	野猿 62頭/年	野猿 124頭/年	野猿 100頭/年

施策3 商工業の振興

1 商工業の活性化を支援します

新型コロナウイルス感染症の影響も薄くなり、新規開業やリニューアル事業に着手する事業者が増加傾向にあるが、既存の店舗も経営者の高齢化に伴う事業承継ができずに空き店舗も増加している状況にある。令和4年度から補助制度を見直し、新規開業やリニューアルを行う事業者に対しては補助金の加算を行っている。また、空き店舗の活用として、商店街でのマルシェを開催し活用方法を検討していく。商店街でのイベントについては、地元高校生や中学生とのコラボにより開催し、地域全体の活性化につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
商工団体会員数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	992人・団体	962人・団体	900人・団体
助成制度を利用した新規事業所数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	7事業所	20事業所	31事業所 (令和元年度からの累計)

2 経営力の向上を支援し、担い手・後継者を育成します

市内中小企業等の意識改革や人材育成につながる企業懇談会やセミナーを開催し、AI技術を活用した意識改革を図っていく。また、人材育成につながる資格取得に係る経費の一部を補助することで、事業継続と経営強化を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
助成制度を利用し経営革新や事業継承、リニューアルした事業所数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	2事業所	24事業所	26事業所 (令和元年度からの累計)

3 地場産業の振興と企業誘致を推進します

有漢工業団地は令和3年度に第1期が売却となり、令和4年度からは第2期の造成に取りかかっているといるところである。更なる企業誘致等に向け、新たな適地調査や廃校、空き店舗の活用を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
事業所数 (製造・小売)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	471事業所	402事業所	440事業所
誘致企業数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	0社	1社	3社
工業団地造成数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	1箇所	1箇所	2箇所 (令和元年度からの累計)

施策4 新たな産業の創出と雇用環境の改善

1 新たな産業の創設に取り組みます

新たに創業を計画している事業者を支援するため、商工団体と連携して創業塾を開催し、創業に必要な知識等の習得を図っている。国や県の制度を活用し、経済が動き出した状況に対応できる産業の創出を支援していく。

また、6次化産業を推進していくため、県普及指導センターや市内関係課と連携して、製品開発や販路開拓・販売促進につなげていくとともに、市内の廃校や古民家を活用した市内創業も促進していく。

2 安定した雇用の維持・創出に努めます

市内の有効求人倍率が高止まりし、慢性的な人材不足に陥っている。市内就職者を増やしていくため、中学生、高校生を対象とした市内企業見学バスツアー等を継続的に開催し、若い世代に市内企業を知ってもらうための取組を進めていく。また、市内外の方に市内企業を紹介するため、Web等を活用した企業PRの方法を検討していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
年間の市内新規学卒者数の市内就職決定者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	87人	68人	100人

3 新たな働き方を支援します

新型コロナウイルス感染症の拡大により、リモートワークなどの新しい働き方が浸透した。新型コロナウイルス感染症の5類への移行後も新たな働き方として定着している。市内にコワーキングスペースを多く整備していくことで、新しい働き方の意識改革とハード整備を推進していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
サテライトオフィス等の設置数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	0件	3件	2件

基本方針 1 地域産業・地域資源を活かした活力あるまち

政策 2 観光交流人口を拡大し賑わいあるまちづくりを進めます

施策 1 観光の振興

1 観光交流人口の拡大に努めます

「備中松山城」と「雲海・さんじゅーろー」、「吹屋」と「ジャパンレッド」などのキーワードを軸にマスコミや旅行会社などに幅広いプロモーションを展開するとともに、二次交通の充実などの基盤整備を進めている。特に「吹屋」においては、旧吹屋小学校や日本遺産センターのオープン、人気ゲーム「ポケモンGO」とのコラボ企画など、全国に向けた情報発信によって知名度が上昇するとともに、観光客も増加傾向にある。

今後、新型コロナウイルス感染症対策の緩和によりインバウンド観光需要が大幅に回復することが見込まれる中で、関係団体との連携を強化し、ソフト・ハード両面でのインバウンド受入体制の整備を急ぐ必要がある。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
年間観光客数 (主要施設)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	447,000人	301,849人	600,000人

2 地域での観光振興活動を支援します

コロナ禍によるイベント等の自粛が続いていたが、令和4年度からは感染防止対策をとったうえでのイベント再開が続いており、コロナ禍前の賑わいを取り戻していくため、引き続き地域の取組を支援していく。また、インバウンドに備えたガイド研修等にも積極的に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
観光ガイド活動実績	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	303件	262件	363件
ロケ支援件数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	31件	28件	40件

3 観光資源の掘り起こしやブラッシュアップによる魅力向上を図ります

DMO (観光地域づくり法人) と連携し、二大観光地 (備中松山城・吹屋) や他の観光資源のブラッシュアップを図るために旅行商品の造成を進めている。また、周辺自治体と連携した広域ツアーの造成にも着手しており、引き続き観光資源の魅力向上を図っていく。

4 観光振興を地域経済の発展につなげます

二次交通の強化 (レンタカー事業者の誘致や空港直行バスの試行、グリスロの導入) により、滞在時間の延長につながる基盤づくりを進めているが、認知されるまでに時間を要するため継続的なプロモーションが必要である。

吹屋ブランドの商品開発支援に着手しており、今後はブランド認定制度等を運営し魅力的な土産物開発に取り組んでいく。しかし、食事メニューや体験メニューの開発の動きは停滞しており、関係者の機運を高めながら一丸となって取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
1人当たり観光消費額 (日帰り)	平成28年度	令和4年度	令和7年度
	2,780円	2,699円	3,600円
観光宿泊者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	34,121人	29,002人	37,500人

基本方針 2 美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政策 1 自然を守り環境にやさしいまちづくりを進めます

施策 1 環境保全対策の推進

1 環境保全活動に取り組みます

令和4年3月に策定した第2次高梁市環境基本計画に掲げる環境像「いつまでも暮らしたい自然歴史 風情のあるまち高梁～地域資源を守り育てる持続可能なまちづくり～」を推進していくために、環境保全に関する各種啓発活動を継続し、市民共通のかけがえのない財産である豊かな自然を次世代に継承していく。また、環境学習・教育を通じて環境意識の醸成や環境保全活動のさらなる活性化を図り、行政・市民・事業者等が参画・協働しやすい環境づくりに取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
高梁川流域クリーン作戦参加者	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	185人	0人	250人

2 地球温暖化対策に取り組みます

令和4年3月に策定した「第2次高梁市環境基本計画」及び令和4年6月に表明した「ゼロカーボンシティ宣言」に掲げた取り組みを推進していくために、身近でできる省エネルギー活動や「COOL CHOICE」(クールチョイス=賢い選択)等の取組みを行政が率先して実践し、事業所・地域への拡大を図る。令和5年度には市域の再エネポテンシャル調査等を実施し「再生可能エネルギー導入計画」を策定予定。そのデータ等を活用し令和6年度以降に「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を策定予定。脱炭素社会の実現に向け、国・県・他自治体の動向に注視しながら、市民・事業所等と連携した施策を展開していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
エコチルドレン育成教室等の環境学習の回数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	5回	6回	12回

※エコチルドレン育成教室：次世代を担う子どもたちに対する環境学習

施策 2 循環型社会の形成

1 ごみの適正な処理を推進します

人口減少と反比例し、一人当たりのごみ排出量は増加傾向にある。引き継ぎ、ごみ処理の有料化について研究・検討を行っていく。

ごみステーションの設置(新設及び修繕)に対する助成は、既存施設の老朽化に伴い、問い合わせや要望が多い補助金事業のため継続していく。

2 ごみの減量化・分別・リサイクルを進めます

ごみ分別・再資源化の必要性について、改めて市民の意識啓発を行う。また、スマートフォンアプリや分別ガイド冊子「マナーは家庭から」の内容の充実を行い、判断が難しい物等の分別検索をしやすくし、ごみの減量化と分別の徹底を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
家庭系ごみの排出量 (資源収集品を除く)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	597 g / 人・日	590 g / 人・日	485 g / 人・日
ごみのリサイクル率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	14.2%	13.8%	20.0%

基本方針 2	美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政策 2	安心・安全なまちづくりを進めます

施策 1 生活安全対策の充実

1 地域防犯対策の充実を図ります

防犯カメラの設置や高齢者を守る特殊詐欺対策機能付き電話の購入など、地域の防犯機能や市民一人ひとりの自主防犯意識を高めるための支援を継続して行うとともに、地域防犯団体との連携を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
犯罪認知件数 (刑法犯)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	72件	59件	48件

2 消費者保護対策の充実を図ります

消費生活相談体制強化のため、職員のスキルアップのために研修等に積極的に参加する。加えて、継続して啓発活動を行う。

3 交通安全対策の充実を図ります

交通安全教室を継続して行うとともに、自転車利用時のヘルメットの着用に関する理解の促進をはじめ、市民一人ひとりが事故に遭わない、起こさない意識をもつよう、啓発活動や街頭査察等交通安全に関する活動を関係機関と連携して行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
交通事故件数 (総事故件数)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	619件	573件	576件

基本方針 2 美しい自然環境と快適な生活基盤が調和した安心・安全のまち
政策 3 都市機能の維持と快適な住環境の整備を進めます

施策 1 都市機能の維持・確保

1 計画的な土地利用を推進します

自然・歴史・文化と調和した、快適で魅力ある景観の保全、形成を図るため、高梁市景観計画及び高梁市景観条例を制定しているが、守るべき重点地区のエリアが広く、実情にマッチしていないため、重点地区エリアの見直しを検討していく。また、地域住民の町並み保存に対する意識の醸成と制度の周知に努めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
地籍調査事業進捗率	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	95.4%	95.9%	96.2%

2 都市機能を維持します

都市計画区域において、都市機能や居住の誘導・集積を時間をかけて行ううえで、必要な計画「高梁市立地適正化計画」を令和 4 年 3 月 31 日に策定・公表した。これにより、都市機能誘導区域、居住誘導区域内に住宅、社会福祉、教育文化、商業施設等を緩やかに誘導し、人口密度を維持、持続可能なまちづくりに取り組んでいく。

都市計画道路「南町近似線」および「下町薬師院線」の未整備区間について、整備に向け、令和 2 年度より準備を進めており、令和 4 年度末の事業認可を受け、令和 5 年度から事業を実施。当該事業に係る財源確保を念頭に、関係機関との調整および地権者との関係構築を行い、事業の円滑化を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
都市計画道路整備延長	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	8,367m	8,367m	8,467m

3 住宅・宅地を整備します

子育て世帯向け地域優良賃貸住宅は、これまで 6 団地 14 戸管理しており、すべて入居中。令和 4 年度は川上町地頭地内に木造 2 階建の戸建て住宅を 1 戸建設。建設費の上昇により財政負担が増加しているが、動向を見つつ引き続き整備を継続する。移住対策としてのオーダーメイド型住宅の整備についても適地選定を進めていく。

分譲宅地は、これまで高梁地域、有漢地域、成羽地域に 29 団地 350 戸の整備を行っており、未売却は 8 区画ある。令和 4 年度に下原中央団地 9 区画を整備。次年度以降の整備は未定だが、民間分譲宅地の販売動向などを考慮して検討していく。

市営住宅等の維持管理は、令和 3 年度に策定した高梁市公営住宅等長寿命化計画の中で、耐用年数や安全性・入居率等を勘案し、改善・維持管理する住宅と募集停止・用途廃止とする住宅を決定した。今後は、改善が決定した住宅については年次計画で長寿命化工事を行い、適正な管理戸数に近づけていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
子育て支援住宅の建設戸数 (累計)	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	13 戸	14 戸	17 戸
市営住宅管理戸数	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	1,021 戸	1,012 戸	927 戸

4 空き家対策に取り組みます

空き家情報バンクについては、今後も登録件数増加を目指して、各地域に空き家を活用した受け入れ体制の整備を働きかけていく。また専門家や専門業者を含めた新しい組織を立ち上げてプラットフォームを構築していき、NPO等が所有者等に寄り添って、空き家の活用・管理に係る相談対応や所有者等と活用希望者とのマッチング等の活動をしやすくなるような環境整備を進めていく。

老朽危険空き家の除却費用の助成は、問い合わせも多いため、補助の拡充を行い、事業を継続していく。また、近隣住民から対応要望がある老朽危険空き家については、所有者や相続人等に対応の依頼を行うが、迅速な対応が望めない場合、周囲の住環境の安全等を図るため、代執行を含めた対応の検討を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
空き家情報バンク新規登録物件数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	65件	86件	70件

施策2 公共交通手段の確保

1 利用しやすく効率的な公共交通を維持するとともに、公共交通機関の利用促進を図ります

第2次交通網計画に基づき、路線バス等の見直しを図っていくとともに、低利用路線については検証し、減便等を実施していく。低利用路線で廃止した、高倉町田井、飯部・落合町福地・成羽町上日名、下日名地域については、タクシー利用助成実証事業を令和2年12月から実施している。令和4年度実績で登録者は87人、タクシー券は70。7%が利用されている。

今後は、次期計画へ向けた住民ニーズの把握や減便等を実施し経費部分も含め費用対効果を検証していく。また、現在実施しているタクシー利用助成事業の地域拡大についても検証し、新たな公共交通手段の検討を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
地域公共交通サービスに関する満足度 (アンケート調査の5段階評価平均点、 満足5、やや満足4、どちらでもない3、 やや不満2、不満1)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	3.09	毎年の調査なし	3.30

施策3 社会インフラの充実

1 道路・橋梁の整備・管理に取り組みます

道路改良等を計画的に実施するとともに、定期的なメンテナンスを行うことで、安全・安心なインフラ整備を行っていく。

あわせて、道路維持修繕においては、経年劣化により修繕箇所が年々増加しており、安全な通行を確保するための迅速な補修を進めている。また、草刈りをはじめとして地元の継続的な維持管理・協力は欠かせないため、マンパワーが不足してきている町内会への負担軽減を図りつつ、道路維持管理体制が継続できるよう取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市道の規格改良率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	28.3%	28.3%	28.6%
市道の舗装率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	81.0%	81.0%	81.5%

2 上下水道施設の整備・管理に取り組みます

上水道施設・下水道施設について、アセットマネジメント計画及びストックマネジメント計画・耐水化計画に基づき適切な維持管理や耐震化を含めた計画的な更新を引き続き行っていく。

水道施設が老朽化しており、アセットマネジメントに基づく維持管理とは別に、老朽化による漏水修繕をはじめとした通常の修繕工事も多発しており、独立採算の水道会計を圧迫してきていることが課題となっている。また、経営戦略に基づく継続的な経営分析を定期的に行い、適切な時期において相当の使用料改定を検討することも必要となってきた。経営改善に向けた主要な取組として有収率の改善を掲げており、新たな漏水の早期発見、修繕にあわせ民間を活用した計画的な漏水調査も継続して行うことで、徐々に数値も改善してきている。予算の範囲内において、確実に管路の更新を図り、有収率を向上させていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
有収率 (有収水量／総配水量)	令和2年度	令和4年度	令和7年度
※給水量と料金として収入のあった水量の比率	77.1%	76.5%	83.0%
下水道処理区域内の水洗化率 (接続人口／処理区域内人口)	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	95.0%	96.0%	97.0%

基本方針 3 心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち

政策 1 健康で心豊かに暮らせる環境を整えます

施策 1 健康づくりの推進

1 生活習慣病予防を推進します

大腸がん検診の受診者の減少や医療費が上昇している状況から、令和 5 年度は大腸がんを受けようキャンペーンと題して、市内での受診率を上げるよう取り組んでいる。

すこやかプラン推進委員会等では「病院や市外の医療機関で受診している人が多い」といったご意見があり、今後については市外健診のデータを市へ提供してもらえようような対策を検討し、健診受診者数、健康状態の把握に努めていく。また健診結果から精密検査が必要な方等は確実に医療機関受診ができるよう働きかけていく。特定保健指導も確実に指導が受けられるよう働きかけを行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
特定健診受診率	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	29.3%	26.1%	60%
特定保健指導率	令和元年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	28.9%	41.1%	60%
大腸がん検診受診率 50 歳～69 歳の男女※	平成 29 年度	令和 3 年度	令和 7 年度
	8.4%	5.6%	20%
敷地内全面禁煙の実施施設 (市有施設数)	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	53	52	148

※【出典：厚生労働省 平成 29 年度地域保健・健康増進事業報告（健康増進編）】

がん対策推進基本計画（平成 24 年 6 月 8 日閣議決定）に基づき、がん検診の受診率の算定対象年齢をそれぞれ定めている。

2 母子の健康づくり活動を推進します

出生数は減少傾向にあるが、赤ちゃん訪問等実施率は 100%で確実にこなしている。里帰り等で 4 か月までに訪問できない場合でも里帰り先自治体へ依頼をし、早期に状況把握ができるよう取り組んでいる。令和 5 年度からは伴走型相談支援事業を行い、保護者の不安に寄り添うよう徹底して取り組む予定としている。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
生後 4 か月までの赤ちゃん訪問実施率	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	94.5%	100%	100%
1 歳 6 か月児健診受診率	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	98.5%	95.2%	100%

3 心の健康づくりを推進します

こころの健康づくりについては、様々な機会をとらえて普及啓発を行っている。しかしながら自死等の健康危機はゼロではなく今後もゲートキーパー等早めに気が付き寄り添うことができる人を増やしていく必要がある。今後も、啓発活動、ゲートキーパー養成講座を推進していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
講演会・健康教室実施回数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	20回	25回	30回
ゲートキーパー養成講座受講者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	179人	298人	500人

施策2 地域包括ケアシステムの推進

1 介護予防・重度化防止の推進を図ります

「介護予防・日常生活支援総合事業」における通所型サービスBとして、令和4年度末に新たに有漢地域で「うかん気楽会」が開設され、巨瀬地域の「もくもくDAY」と合わせて市内2カ所となった。また、住民主体の通いの場への誘い出し、付添活動を行う通所付添サポート事業は、巨瀬、落合、川上、川面に令和4年度有漢、松原が加わり6カ所となった。今後は津川、中井地域への立上げ支援を進める。元気なからだつくり隊では活動中止と新規登録にて昨年同様の21カ所である。今後はコロナ禍により低迷していたグループ活動の支援、新たなグループ登録に向けての支援を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
通いの場数(週1回以上実施)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	20箇所	23箇所	31箇所

2 認知症施策の充実を図ります

認知症カフェの設置数は変わらないが、認知症カフェでの支援が日常生活の見守りや声かけに繋がっており、川上地域の認知症カフェかわかみ茶坊を拠点としたチームオレンジかわかみが立ち上がった。また、週1のロコモ予防体操に取り組む元気なからだつくり隊『布施いきいきクラブ』を拠点とした『チーム 布瀬の“わ”』が立ち上がり、認知症の人の日々の見守り、通いの場への声かけ等の支援が進んでいる。今後は、認知症カフェ運営継続支援と定期的な通いの場がない備中地域への認知症カフェ設置を目指す。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
認知症カフェ設置数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	9箇所	9箇所	14箇所

3 生活支援体制の充実を図ります

令和3年度からボランティア養成講座を年1回開催している。令和4年度は有償で高齢者の生活支援を担ういきいき生活サポーターの登録者20名、利用者3名であった。サポーター登録者を増やし、各地域の利用希望に応じられる体制を整えるため、令和5年度はボランティア養成講座を2会場で開催予定。通いの場への付添支援を行う通所付添サポート事業は令和4年度末で計6カ所となった。令和5年度は3カ所増設予定で、ボランティア活動による高齢者の生きがいがづくり、共助による社会資源の仕組みづくりを進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
生活支援ボランティア養成者数	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	0人	20人	100人

4 介護分野で働く専門職の養成・確保を図ります

市内の介護福祉士養成校が閉校したため、介護事業所と連携し市外の介護職養成校の学生の確保を目指す。対象者を緩和したホームヘルパー養成研修を実施するなど、事業所と共同し介護人材の養成、確保を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
介護福祉士養成修学支援事業による支援者の市内就職者数 (延べ)	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	0人	6人	30人

施策3 地域医療体制の充実

1 持続可能な地域医療体制の充実を図ります

看護師等の人材確保のため、奨学金制度の普及、看護師養成校や教育機関へのPR等の新規養成者に対する取り組みを継続するとともに、令和4年度末に補助金メニューとして追加した「定着促進」・「復職」・「業務効率化・働き方改革推進」支援事業の取組みを進める。救急医療については、持続可能な提供体制について県・医師会等と協議を進めていく。また、公立診療所の在り方についても引き続き検討を行っていく。成羽病院においては、へき地医療拠点病院としての使命を全うしていくため、医師等の医療従事者の確保、並びに病院経営状況の改善に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
看護師等奨学金貸付者等の市内就職者数 (累計)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	14人	21人	26人
医療・介護従事者のスキルアップ研修会参加者数 (延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	486人	278人	490人

2 医療と介護の連携を推進します

医療と介護の連携した場面で質の高いサービスが提供できるよう専門分野を越えた多職種合同の研修会を継続して実施するとともに、さらなるケアや支援の向上と業務の効率化を図るため、ICTの活用を含めた多職種連携体制の強化に向けて検討していく。また、もしものときのために望む医療やケアを前もって考え、繰り返し話し合う人生会議(ACP)を医療・介護関係者が適切に理解できるよう支援するとともに、市民への普及・啓発を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
多職種連携研修会参加者数 (延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	140人	188人	140人

施策4 感染症対策の推進

1 感染症対策を推進します

高齢者のインフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策としてワクチンが重症化予防に有効であることを、広報紙や高齢者が集まる地区健康教室、愛育委員、民生委員会等で説明し接種勧奨を行った。今後も接種勧奨を行っていく。

BCG予防接種については、持病のある児や、ワクチン接種を希望しない保護者もあり100%達成は難しいが、広報のほか、赤ちゃん訪問、乳児健診において、接種の必要性について説明し、接種率の向上を図る。個別にワクチンの接種勧奨を行っているが、新型コロナウイルス感染症もあり医療機関受診を控える傾向もあり全体的に接種率が低下している。麻疹の患者発生や先天性風疹症候群を防ぐためにも引き続き、未接種者に対しては個別に勧奨を行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
高齢者のインフルエンザ 予防接種率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	58%	56%	70%
BCG予防接種率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	100%	86%	100%
麻しん・風しん混合 2期 予防接種率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	97.12%	95.9%	100%

基本方針 3 心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち

政策 2 安心して子どもが生まれ育つことができる環境を整えます

施策 1 子育て支援の充実

1 子どもの生きる力を育むための地域づくりを支援します

市の出生数が減少しているなかでファミリーサポート事業の会員数は減少していない。児童数の増減状況から推測すると会員数は増えていると考えられるが、利用状況は芳しくない。今後は、ニーズ調査を行うなどし利用しやすい事業となるよう検討していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
ファミリー・サポートセンターの提供会員・両方会員数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	28人	28人	42人

2 切れ目のない子育て支援の充実を図ります

出産から子育てまで支援していく中で、個別の不安や相談に対応していけるよう、専門職の配置や一時預かり施設の必要性を検討するとともに、切れ目のない支援を行うため、健康づくり課と子ども未来課が連携し、さらに支援体制づくりを行っていく。また、男性が育児休業を取得しやすくなる国の育休制度の改正も踏まえて、企業にも育休や子育てへの理解を深めてもらう取り組みをさらに進め、仕事と子育ての両立がしやすい環境づくりをしていくことにより出生率の向上を推進していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
健診未受診者の把握率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	100%	100%	100%
子育て支援センター利用率 ※0歳～2歳児の登録者割合	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	43%	29%	50%

3 教育保育サービスの環境整備及び質の充実を図ります

教育保育の質の向上については、高梁市就学前教育保育課程を実践しており、専門的な指導・助言を行うことで一定の成果を得られている。子ども園・保育園では、職員の研修時間の確保が困難となっているが、引き続きアドバイザーの配置を行い、幼児教育・保育の質の向上を図っていく。また、幼稚園の園児数は年々減少しており、小規模園では、集団活動に課題が生じている。教育・保育の質を向上させるためにも、今後の幼稚園について方向性を示していく。認定子ども園の整備については、高梁子ども園（仮称・公立）・落合子ども園（仮称・私立）について、事業着手しているが、コロナ禍及びウクライナ情勢の影響による物価高騰により建設費の大幅増額が予想されるため、コスト面も考慮しながら「子どもの夢が広がる子ども園」を目指し、事業費の検討を行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
認定子ども園の数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	3箇所	3箇所	5箇所
一時預かり実施施設数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	1箇所	1箇所	3箇所
学童保育支援員資格保有率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	47%	61%	70%

4 子育てに悩みを抱える家庭をサポートします

関係機関との密接な連携を継続し、子どもたちが安心して成長できるよう教員・民生委員への啓発を今後も行っていく。ひとり親家庭で養育費の取り決めがなされていない家庭の経済的な安定を支援するため、面談時や広報等で、養育費確保支援事業補助金の周知を図っていく。ひとり親家庭の経済的自立、また、ひとり親の就労能力の資質向上のため高等職業訓練促進給付金の周知を図り、資格取得を推進していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
虐待等についての啓発事業回数 ※民生委員会出席・学校訪問・広報活動	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	32回	26回	50回
ひとり親就労相談による就職率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	36%	25%	50%

基本方針 3 心のつながりを大切に支え合い助け合う健康のまち

政策 3 みんなで支え合い助け合う地域福祉活動を進めます

施策 1 障害者（児）福祉の充実

1 障害者（児）の生活を支援します

地域生活支援拠点事業等の検討を行うとともに、障害者が地域で活躍できる場や役割の構築、地域全体の理解促進を促しながら、高梁市として地域で障害者とその家族が安心して生活ができるための共生のまちづくりを進めていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
地域活動支援センター I 型及び地域生活支援拠点の設置数	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	0 箇所	0 箇所	1 箇所
一般就労移行者数（年度末人数）	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	4 人	4 人	8 人

2 希望に即した障害福祉サービスの充実を図ります

不足しているサービスのニーズを把握し、利用できるよう供給体制について事業所への働きかけを行うとともに、ニーズに応じた情報提供や相談体制が取れるよう相談支援事業の充実を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
訪問系サービス（居宅介護）利用者数（月平均）	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	19 人	19 人	35 人

施策 2 高齢者福祉の充実

1 高齢者の生きがいづくりと活躍の機会を支援します

企業の再雇用対策により、退職後もフルタイムに近い形で就労を続ける人が増えており、退職後のシニアの働き方の選択肢も広がっている。シルバー人材センターが地域貢献、生きがいの場として選ばれるには、働きやすさのメリットや賃金待遇の向上が求められる。

シルバー人材センターとしても安定的に事業を継続するため、求められる仕事量に対応できる会員の確保が不可欠であり、積極的な広報活動を続けていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
シルバー人材センター事業 就労人数（延べ）	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	13,966 人	12,757 人	15,500 人

2 高齢者福祉サービスを推進します

福祉移送サービスは、住み慣れた地域で自立した生活を維持するために不可欠な交通手段として定着している。ドライバーの高齢化と確保が課題であり、またスムーズな運行のためカーナビの導入など車両の整備が求められる。

また、生きがいデイサービスやミニデイサービスの実施により、高齢者の家での閉じこもりを防止するとともに、社会参加や生きがいづくりにもつながっている。その一方で、ミニデイサービスは、各地区のボランティアを中心に実施しているが、ボランティアの高齢化が進んでいる状況にあるため、持続的で安定的な運営を目指し、委託先の高梁市社会福祉協議会と連携を密にして事業に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
福祉移送サービス事業 利用人数 (延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	3,944人	4,722人	4,000人
健やか高齢者生きがい支援事業 利用人数 (延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	5,164人	3,220人	5,400人

施策3 地域福祉活動の推進

1 地域の福祉活動を推進します

成年後見制度の利用促進及び対応強化の推進役となる中核的な機関として令和3年4月1日に高梁市権利擁護センターを設置し、運営を高梁市社会福祉協議会へ委託している。広報活動の成果もあり相談件数は年々増加している。高齢者の増加とともに成年後見制度による支援を必要とする人が今後も激増する見通しであるが、後見人の人材不足が課題である。専門職の後見人不足のため、市民後見人の養成に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
中核機関 (権利擁護センター) における相談件数 (延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	179件	345件	200件

※現状値は中核機関設置前の相談件数

2 低所得者の生活を支援します

令和3年度から就労支援員を任用したことにより、ケースワーカーと連携した就労支援が可能となった。就労率は上昇しているが、体調不良等により就労困難なケースも存在するため、健康管理と合わせた支援が必要である。また、令和4年度の求人は回復傾向であったが、12月を境に大きく減少しており就労場所の新規開拓も不可欠である。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
就労支援による被保護者就労者率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	23%	33%	30%

基本方針 4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち

政策 1 心身ともにたくましい子どもが育つ学校教育を進めます

施策 1 学校教育の充実

1 確かな学力の育成を図ります

タブレットや電子黒板等、学校のICT環境は整った。令和4年度、ICTを活用した指導を行っているとは回答した教員の割合は90%を超えている。今後は、タブレット等をいかに効果的に児童生徒の学力向上へつなげていくかが課題である。児童生徒等に身に付けさせたい力は何か、そのためにどのような指導を行うのかを明確にした授業を展開できるよう、研修等を行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
全国学力・学習状況調査における平均正答率との差	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	小…公立全国平均 -0.5 中…公立全国平均 -1.0	小…公立全国平均 -0.9 中…公立全国平均 0.1	小…公立全国平均 +1.0 中…公立全国平均 +1.0
ICTを活用した指導・支援を日常的に行っている教員の割合	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	69.7%	91.9%	100%
校務支援ソフトのメニューを有効に活用している教員の割合	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	令和3年度より運用	87.8%	100%

2 個に応じたきめ細やかな指導体制の充実を図ります

教職員の特別支援教育に係る専門性を高めるため、特別支援教育支援員研修会、特別支援教育コーディネーター研修会、希望者によるスキルアップ研修会を開催した。また、特別支援学級担任の特別支援学校免許状の取得を推奨している。児童生徒の実態に応じた適切な学びの場が選択できるよう、特別支援学級等の入級基準や手続き等について、学校関係者や保護者、関係機関等に周知を行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
小中学校特別支援学級担任の特別支援学校教諭免許保有率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	46%	55.2%	100%

3 豊かな心と健やかな体を育てます

令和4年度はコロナ禍の中、タブレットを積極的に活用し、オンラインによる交流を幅広く展開することができた。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、各校園の体験的な学習の充実を図っていく必要がある。「ふるさと学習」を通じて、地域の方との関りを深めていく中で、相手を理解したり、多様な価値観を受け入れたりするなど、豊かな心の育成を目指す。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
「学校に行くのは楽しいと思う」児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	小6…81.2%	小6…88.7%	小6…100%
	中3…84.6%	中3…74.4%	中3…100%
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	小6…96.0%	小6…96.9%	小6…100%
	中3…97.0%	中3…96.2%	中3…100%
「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	小6…84.6%	小6…83.6%	小6…100%
	中3…72.7%	中3…66.3%	中3…100%

4 地域との連携を活かした教育を進めます

地域資源を活用した多様な取組が行われている。しかしながら活動がマンネリ化し、児童生徒等にもどのような力をつけたいのか、目的が曖昧になっている状況が見られる。総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習の推進、特色ある学校づくり事業の拡充を行うことで、学校と地域との連携を深めていく。また、その基盤としてのコミュニティスクールの活動の充実を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
特色ある学校づくりに取り組む小中高等学校の割合	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	令和3年度より開始	27.3%	90%
「今住んでいる地域の行事に参加している」児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	小6…77.7%	小6…71.6%	小6…100%
	中3…68.1%	中3…58.8%	中3…95.0%

施策2 教育体制・環境の整備

1 適切な学校配置と一貫した教育体制づくりをめざします

高梁市独自の学級編制基準により令和3年度から小学校1学級30人以下、令和4年度から中学校1学級35人以下に引き下げたところ、きめ細やかな指導等の実現や教室のゆとりの確保ができた。高梁市立学校再編推進審議会における「教育環境を確保するための小中学校再編の基本的な考え方」の答申に沿って再編を進めており、小中学校の教育の充実に向け学校の適正配置について検討し、適正配置計画の策定を目指している。また、全ての学校園において、「高梁市の一貫教育全体構想図」「たかはしベーシック」の内容をカリキュラムに位置付け実施している。今後も引き続き、校区の校園長会や学校運営協議会等において、めざす子ども像を共有し、具体の実践を進めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
「近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」学校の割合 (全国学力・学習状況調査より)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	小…60.0%	小…85.7%	小…85.0%
	中…83.3%	中…83.3%	中…100%

2 安心・安全な給食の提供と食育を推進します

学校給食での市内産品の使用率を高めるため、市内関係機関との連携を図ることで目標数値には及ばないが、使用率は上がった。しかしながら、市内産品の該当基準が厳しい状況にあるので、県内産の使用率の向上を目指していく。また、食育の面では栄養教諭並びに学校栄養職員と連携し、「高粱味めぐり」や「わたしたちが考えた給食献立」により、食への関心を高め、給食を生きた教材として活用している。今後も関係機関と連携しながら、地域食材を確保し、安心安全な給食を提供するとともに、子どもたちに食の大切さを伝えていく。今後想定される学校・園の再編を見据え、給食センター等の改修費用を考慮したうえで学校給食センターの再編と調理業務の民間委託について学校給食センター再編検討委員会で協議していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
学校給食での市内産品の使用率※	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	14.9%	21.3%	50.0%

※ 全使用品目に対する市内産分の延べ使用回数割合を年2回(各1週間)集計したもの
 なお、加工品等は、原材料が市内産でなければ市内産品に該当しない。

3 学校施設・設備の充実を図ります

学校におけるICT環境の充実については、1人1台端末、そして普通教室への電子黒板の配備が完了し、特別教室においても概ね配置できている状況であり、かなり図れている。令和4年度は1人1台端末をiPadに統一し、また家庭への持ち帰り学習を促進するため充電器を整備した。施設整備については、利用頻度が高い特別教室への空調設備の整備及びトイレの洋式化を順次進めており衛生管理という面からも重要な整備と考えている。学校施設の中には、かなり老朽化している施設もあり、限られた予算の中で対応していく必要はあるが、学校施設は子供たちの学習・生活の場として、大半の時間を過ごす場所であるので、将来にわたって充実した教育活動を行えるよう今後の学校の再編の状況及び長寿命化計画に併せ、環境整備を行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
教室への電子黒板等の設置率	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	22.3%	78.1%	100%
空調設備の特別教室整備率	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	63.0%	75.1%	85.0%
トイレの洋式化率	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	46.7%	52.7%	70.0%

基本方針4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち

政策2 生涯学習の機会を広げ文化・スポーツの振興を図ります

施策1 生涯学習の推進

1 生涯学習活動を推進します

新型コロナウイルス感染症の拡大により様々な制限がある中で各公民館において工夫しながら、特色ある講座や地域のニーズに合わせた公民館講座を実施し、地域住民の交流や幅広い学習活動の場を提供できた。また、コロナ禍により従来のような事業実施が困難になっている事業もあったが、可能な範囲で子どもたちの夢を広げる体験活動や市内の魅力を発見する体験活動を行った。

しかしながら、一部の事業については参加者の固定化や内容のマンネリ化、他事業との内容重複なども見受けられるため、必要に応じて事業の見直しを行うなど創意工夫を行い、誰もが楽しみ触れ合える生涯学習活動を推進していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
公民館講座受講者数 (延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	17,880人	6,819人	20,000人
青少年の体験講座等の参加者数 (延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	1,839人	957人	2,000人

2 社会教育施設の充実を図ります

新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、コロナ禍の図書館における役割を考え実施可能な事業に取り組みながら、目標の「図書館主催の講座等の参加者数 (延べ)」は達成できた。また、老朽化した社会教育施設の整備等も行い利便性の向上を図った。今後も設備改修等で快適な施設環境を整えるとともに、指定管理者との連携を密にしながら、市民のニーズを捉えた社会教育施設の充実に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
図書館主催の講座等の参加者数(延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	5,953人	12,789人	7,000人
図書館(室)の市民一人当たり貸出冊数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	7.4冊	6.4冊	10冊

3 地域文化・芸術活動の振興を図ります

市内文化協会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって文化祭の開催を断念した団体もあるが、感染症対策を講じた上での可能な範囲で活動を行っている。文化連盟の会議等の再開に伴い、各文化協会同士の情報共有を図り、文化祭における交流を行うなどの連携を図ることにより、一層の文化活動を推進できるように努めていく。

また、近年重視される文化財の活用の一環として、未指定のものも含めて地域の文化財の価値を掘り起こし、その成果を歴史美術館をはじめとした展示施設での展示に反映させ、地域の歴史について教育普及を図り、本市への愛着心や誇りを醸成していく。さらに、市民の関心と学習意欲に応えるような文化講座や芸術・文化の鑑賞機会を提供するため、引き続きさまざまな企画を実施するとともにニーズの把握に努めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
文化連盟・文化協会主催の文化祭等の入場者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	3,595人	2,484人	3,700人
歴史美術館入館者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	※1,663人	1,301人	3,000人
成羽美術館入館者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	17,851人	10,728人	20,000人
吉備川上ふれあい漫画美術館入館者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	10,848人	8,666人	12,000人
山田方谷記念館入館者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	4,936人	2,722人	5,000人

※令和元年度は、収蔵庫空調改修工事により上半期を休館としたため、通常より減少している。

施策2 文化財の保存と活用

1 文化財の保護・保存と有効活用を図ります

新型コロナウイルス感染症の影響が長引いており、公開施設等への入館者数は以前よりは減少しているが、令和3年度と比較すると若干持ち直している。備中神楽等の民俗芸能に関しては、補助金を活用した団体はほぼ横ばいであった。文化財の保存における個別事業（史跡整備、文化財調査、天然記念物管理など）は着実に計画通り実施できている。また市指定文化財の高梁市郷土資料館（旧高梁尋常高等小学校本館）については、令和3年度の実施設計を受け、令和4年度に保存修理を実施し、竣工した。さらに市指定文化財の穴門山神社随神門と上野の阿弥陀如来坐像の保存修理にあたり、助成を行い適切に修理が完了した。

今後については、公開施設については、本格的なアフターコロナを見据えて、以前実施していたイベント（特別公開など）などを再開するとともに、本格的な公開を迎えた旧吹屋小学校では整備を行った日本遺産センターを活用し、情報の発信を行いながら、各種イベントなどにおいて積極的に活用することが求められる。また他の文化財においても文化財の保存を前提としながら、活用を図っていく方法を模索する必要がある。さらに各種事業、文化財の調査等は継続して実施し、必要に応じて現地説明会や講座等を実施するなど、文化財に触れる機会を提供していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
国指定文化財備中松山城入城者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	99,267人	67,813人	120,000人
臥牛山のサル生息数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	145頭	138頭	135頭

2 歴史を活かしたまちづくりを推進します

歴史的風致の維持向上にはハード整備と併せて、ソフト面の取り組みも必要となる。新型コロナウイルス感染症の5類移行により、コロナ禍以前の活動も徐々に復活してきており、アフターコロナを見据え、日本遺産を中心とした交流人口の増加を目指す。本町・城下町地区について、町並みを維持するため、歴史的風致に対する住民の意識の醸成と制度のさらなる周知を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
歴史的町並み保存地区整備事業実施件数 (累計)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	66件	77件	78件
吹屋伝統的建造物群保存地区保存修理事業実施件数 (累計)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	146件	153件	160件
旧片山家住宅入館者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	8,114人	7,150人	9,800人
旧吹屋小学校 日本遺産センター(仮称)入場者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	—	30,582人	25,000人

施策3 スポーツの振興

1 ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します

スポーツ協会の組織力強化、生涯スポーツの推進、総合型地域スポーツクラブの育成・支援、スポーツ推進委員の活動支援、スポーツ教室の開催等を実施し、ウィズコロナも進みスポーツ活動も活発になってきている。しかし、総合型地域スポーツクラブ「ピオーネ」の活動は、コロナ禍において大きな煽りを受け、参加人数が減少し、回復する手立てが必要であり、積極的に広報活動を支援し、参加者増に向けて協議していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
総合型地域スポーツクラブの加入者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	208人	123人	230人

2 スポーツを通じた青少年の育成を図ります

サッカー3ライズリーグ(年4回)、平松政次旗学童軟式野球大会(10月)、小中学校と連携した「夢の教室」(ユメセン)、トップレベルの選手やチーム、大学による講習会を開催し、スポーツ技術の向上と競技人口の拡大を図る取組、スポーツ少年団の支援など関係団体等との連携により、計画どおりの取組みを実施できている。しかしながら、コロナ禍の影響で小中学生の体力低下が顕著に表れており、今後もスポーツを通じた青少年の育成を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
小学校(5年生)・中学校(2年生) 体力テストのA B段階獲得率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	48.7%	44.6%	50.0%

3 スポーツ施設の充実と広域的なスポーツを推進します

施設整備については、老朽化している施設設備の改修や利便性向上のための改修整備を計画的に実施しており、今後も計画的に進めていく。広域的なスポーツ推進では、吉備国際大学シャルム岡山高梁の組織力・チーム力を強化するため運営補助、マラソン大会・自転車競技大会の開催、スポーツ合宿の誘致を進めており、コロナ禍においても一定の成果があり、今後も市外との交流を含む積極的な取組みを行い交流人口の拡大に努めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市外との交流を含む広域的なスポーツ 機会への参加者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	15,000人	10,570人	16,000人
市外からのスポーツ合宿者受入人数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	1,600人	2,500人	1,800人

基本方針4 たくましく豊かな心を未来へつなぐ学びのまち

政策3 人権を大切に作る共生のまちづくりを進めます

施策1 人権尊重・男女共同参画社会の実現

1 人権が尊重される社会の実現に取り組みます

配偶者からの暴力などによる人権侵害に対する相談件数は全国的に見ても多い。幼少期からの人権教育や、継続した啓発活動を行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
人権問題学習講座参加者数 (延べ)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	634人	227人	700人

2 男女共同参画社会の実現に取り組みます

男女共同参画の取組は、関係各課の取組も関わってくる。第3次男女共同参画基本計画の数値目標達成のため、部会等で各課の事業内容を把握しながら関係各課と連携して事業を行っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
審議会・委員会等における女性委員の割合	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	20.7%	22.4%	40%
市民意識調査の「男は仕事、女は家庭」という考え方について「同感しない」と回答した割合	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	76.9%	毎年調査なし	100%

施策2 多文化共生社会の実現

1 国際感覚豊かな人材を育成します

令和5年度から国際姉妹都市トロイ市やフランス共和国アンペール高校との交流事業を再開見込みである。今後も継続的な交流を行っていく。大学のあるまちの強みを活かし、市内の子ども達と留学生の交流事業にも取り組んでいく。

2 多文化共生社会の実現に取り組みます

現在実施している日本語教室は、外国人市民にとって交流・相談や異文化理解の場にもなっている。持続可能な多文化共生の推進体制を構築していくため、国際交流担当の地域おこし協力隊の配置や、市民ボランティアの育成・確保、企業との連携等を図っていく必要がある。

外国人市民の孤立化を防ぐとともに、市民の異文化理解を促進するため、地域・大学・企業等と連携して交流事業に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市国際交流協議会が主催(支援)する交流イベントへの外国人市民参加者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	46人	26人	150人

市国際交流協議会の企業会員数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	0	3	6
ボランティア通訳登録者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	4人	11人	10人

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち

政策 1 市民が主役のまちづくりを進めます

施策 1 市民が主役のまちづくりの推進

1 協働が進む環境を整えます

各種団体・まちづくり協議会等との連携、支援により環境整備に取り組んでいるが、コロナ禍で活動縮小、事業中止となっている。引き続き、各種団体・まちづくり協議会等と連携し、人々の交流を促進するとともに、まちづくりの取り組みや活動を集約して幅広く発信していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市民提案型事業の取組団体数	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	4団体	3団体	6団体

2 主体的な住民活動を推進します

高梁地域まちづくり協議会の総会でリーダー研修会の参加を呼び掛けたが、コロナ禍で参加応募者が無かった。引き続き、まちづくり協議会連絡会等の開催により情報交換等の機会を持ち、人材育成の観点からリーダー研修会への参加に繋げていく。

3 市民団体の育成と連携を図ります

令和4年度は市民提案型まちづくり支援事業に5団体からの応募があり、うち1団体が新規団体であった。年度によって継続・新規の偏りや応募数に差があるが、さらなる応募があるよう、新たな発想による企画・事業把握に向け広報・周知を図り、市民団体の育成と連携を図っていく。

また、採択団体同士がつながりを持ち個々の特性を活かしながら活動することで、お互いに良い刺激となり、活動の活性に繋がるよう、採択団体の交流を図っていく。

施策 2 公聴広報の推進

1 公聴活動を推進します

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、市民が集まる機会がコロナ禍以前に戻ってきてつつある。積極的に市内を訪問し、特に若い世代が集まる場（高校、大学、母親クラブ、子育て支援センターなど）に赴き、直接懇談できる仕組みの構築を研究していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市長と語ろう会開催回数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	3回	4回	6回

2 積極的に行政情報を提供します

若い世代に対して市からの情報が届きにくいという声を踏まえ、市のウェブサイトの充実はもちろん、ツイッターやYouTubeの情報発信が効果的と考えている。

SNSの特性を活かした情報発信により、親しみやすく目に留まりやすい（バズりやすい）編集方法を研究していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市ウェブサイトの年間閲覧件数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	239 万件	292 万件	300 万件

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち**政策 2 産学官民連携のまちづくりを進めます****施策 1 学園文化都市づくりの推進****1 魅力ある大学づくりと大学のまちを発信します**

令和4年度から学生を対象として市内の魅力や価値を学び、発信する「高梁まるごとキャンパス事業」に取り組んでいる。学生数の減少に歯止めをかけるため、吉備国際大学ではブランドビジョンの策定や情報発信の強化などブランディングに取り組んでおり、こうした魅力ある大学づくりに向けた取組を、学園文化都市づくり協議会が中心となって応援していく。

また、学生確保に向けた従来からの支援制度を見直し、令和4年度から大学の主体的な取組を支援するための補助金制度を創設。その補助金を活用し、大学では令和5年度から全ての入学者が対象となる特別奨学金制度を創設し、学生数の確保に取り組んでいる。

引き続き大学と連携を密にして魅力ある大学づくりに向けた取組を後押ししていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
吉備国際大学学生の市内就職者数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	7人	5人	34人

2 産学官民の連携を強化します

大学を中心として関係団体で協議を進めてきた「地域連携プラットフォーム（仮称）」の設立が頓挫したため、産学官の連携強化に向けた新たな体制整備を模索している状況にある。一方で、高校生・大学生等が地域の魅力や課題について考え、提案・発信する取組が生まれており、また、市民主体の取組の中で学生と地域をつなぐコーディネーター人材の育成が図られている。今後はこうしたキーパーソンや関係団体との連携により、教育、産業、福祉など様々な分野において高校・大学との連携を深め、人材育成と地域課題解決につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
『地域連携プラットフォーム（仮称）』 参画企業・団体等との共同事業数	令和2年度	令和3年度	令和7年度
	0件	0件	4件

基本方針 5 多様な主体との連携・協働による持続可能なまち

政策 3 持続可能な行財政運営を行います

施策 1 時代に対応した行政経営の確立

1 行政サービス改革を進めます

市有財産等の有効活用や管理運営に対し、民間事業者等の自由な発想による活用方法を事業化するため、「財産の利活用に向けた基本方針及び民間提案制度の実施要領」を策定した。この結果、1施設について民間事業者から提案があり、売却することができた。一方、本市のように人口が少なく、面積が広大な地域では、民間企業にとっては費用対効果が少なく、また、本市にとっては委託料等が多額になり、互いのメリットが一致しにくいという課題もあり、今後も制度の周知と活用できる物件の掘り起こしに取り組む。

2 健全な財政運営を進めます

現在、進めている大規模事業について、物価高騰等により、事業費が増加している。令和4年度決算と総合計画のローリングの内容を精査し、適正な数値を把握したうえで「中期財政見通し」を作成し、今後の健全な財政運営に必要な取り組みを検討していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
市税現年分収納率	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	98.9%	99.1%	99.1%
財政運営の健全化	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	経常収支比率	経常収支比率	経常収支比率
	96.3%	96.2%	96.0%
	実質公債費比率	実質公債費比率	実質公債費比率
12.6%	11.8%	13.7%	
将来負担比率	将来負担比率	将来負担比率	
80.8%	52.2%	79.0%	

3 公共施設等の適正管理と市有財産の有効活用を進めます

平成28年度に策定した高梁市公共施設等総合管理計画では、人口減少及び高齢化に伴う財政難を背景に、公共施設等の適正配置を進めるとともに、効率的な管理や長寿命化対策や積極的な貸付、売却などを行っていくこととしている。計画策定から数年経った現在でも財政難については依然として課題となっていることから、理財課では公共施設再編計画（仮称）の策定等により、将来的な財政負担の軽減・平準化に努めている。令和4年度に、再編計画の素案を高梁市行政改革推進委員会や議会全員協議会で報告しており、今後は関係者の方々への説明を踏まえて正式に策定していく。

4 職員の能力向上と能力を活かせる仕組みをつくります

令和5年度から総務課内に人財育成係（感動担当職員配置）を新設し、高梁市の「熱源」となる職員を確保・育成するとともに、感動担当職員を中心に職員の市に対するエンゲージメントの向上を目指して取り組んでいく。eラーニング環境整備や選抜管理職研修などの独自研修を取り入れ、若手職員の研修への参加を促進する。多様化する行政課題に対して、専門的な知識と技術で対応できる技術職員を中心とした専門職員の確保に努めていく。

横断的政策 1 人口減少対策に取り組みます

施策 1 移住・定住の促進

1 シティプロモーションを推進します

令和4年3月に策定した「高梁市シティプロモーション戦略」に基づき、令和4年度は、高梁市の魅力やイメージを統一性・一貫性を持って市内外に発信していくためのブランドメッセージ（キャッチコピー・ロゴマーク）の設定や電子雑誌「旅色」タイアップ事業の展開、また、多くの人に高梁市の魅力を知ってもらうこと、高梁市に愛着を持ってもらうことを目的に「たかはし動画CMコンテスト」を開催した。令和5年度は、ブランドメッセージとして決定した「わたしあうまち高梁市」の浸透とシビックプライドの醸成を図るための事業を展開していくこととしている。今後、この戦略に基づき中長期的な視点で継続的なプロモーション活動を展開していくため、PDCAサイクルにより進行管理に取り組んでいく。

2 関係人口を拡大します

高梁 i s t 制度により、本市出身者やゆかりのある方で、自ら率先して高梁の魅力や情報を全国発信していただける方を「高梁 i s t」に任命し、定期的(毎月)に市内の観光情報等をメール配信している。県外会員の確保が課題である。都市部で働かれている方や企業を対象に、普段の職場から離れた観光地などで仕事をしながら休暇を楽しむワーケーション体験会を実施した。令和5年度も継続実施(年3回)するとともに新たに保育園留学を開始し、観光資源や地域の方との交流を通じて関係人口の拡大深化を図り、将来の移住・定住に結びつける。企業版ふるさと納税は、前年度を大きく上回る金額を受領した。引き続き積極的なPRを行い、企業版ふるさと納税を契機とした関係人口の創出につなげていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
ふるさと納税の件数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	3,744件	17,795件	20,000件

3 都市部からの人の流れを拡大します

令和4年度から移住コンシェルジュを配置し、対面及びオンライン形式での移住相談体制を構築している。空き家の現地案内では各地域市民センターと、就農希望者への対応については農林課等との連携協力を努めている。令和4年度の移住コンシェルジュの相談件数は57件で、そのうち移住まで結びついたのは12件23人である。新型コロナウイルスによる社会生活への影響が縮小し、空き家情報バンク制度の物件登録・利用者登録が増加している。空き家対策特別措置法や民法(相続法)の一部改正を契機として空き家の流動化を推進し、移住の受入基盤として有効活用する。併せて、空き家や農地を活用した地域ぐるみの移住受入体制の整備を働きかけていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
空き家情報バンク制度成約件数のうち、市外からの移住につながった件数	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	31件	21件	40件
地域おこし協力隊等外部人材の活用人数(国県制度等によるもの)	令和元年度	令和4年度	令和7年度
	3人	5人	8人

4 若い世代の定住促進を強化します

若い世代の定住促進に向けては、アンケート調査等から住宅取得支援に対するニーズが高いことから、子育て世帯等の住宅の新築・取得・リフォームに対する助成、新婚世帯に対する家賃助成、分譲地の造成や子育て世帯向け賃貸住宅の整備など、住宅支援施策の充実に取り組んでいる。今後もオーダーメイド型定住促進住宅の整備など、若い世代のニーズにマッチした新たな対策を模索していく。

また、若い世代の市内就職については、就職面接会への参加者（求職者）自体が少ない状況にあり人材不足が深刻化している。新規学卒者やUターンの就職につながるよう、市内の学生やその保護者に向けて、産官学の連携により情報発信の強化に取り組み、企業訪問バスツアーや企業説明会の開催、インターン事業等を積極的に進めていく。

本市では、以前から子育て支援や定住施策の充実に取り組んできたが、従来からの広報手段ではターゲットとする若い世代に情報が届きにくい状況にあるため、若い世代の関心を引き、情報が届くよう発信内容や手法の見直しを進めていく。

5 コミュニティの機能維持に努めます

過疎、高齢化が進行するなかで、コミュニティでの支え合い、助け合う取組を推進してきたが、長期化するコロナ禍にあって、コミュニティ活動が制限され、地域力低下の加速化が懸念されている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、地域のまちづくり活動が再開されると想定される中、町内会支援制度や地域振興交付金等により活発な地域連携や各コミュニティ事業の再開を後押ししていく。

住民の自助・共助では集落機能を維持することが困難となった地域にあっては、その実情を把握のうえ、公助によって安心・安全な暮らしの確保に取り組むを進めていく。

横断的政策 2 災害に強いまちをつくります

施策 1 防災対策の強化

1 地域防災力の強化を図ります

自主防災組織結成に係る負担軽減を図りつつ、自主防災組織のカバー率の向上を目指していく。消防団の勧誘及び感染防止対策を行いながら、引き続き訓練に取り組み地域防災力の向上を図っていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
地域自主防災組織のカバー率	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	22%	33%	100%
防災士資格取得者数 (累計)	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	40 人	90 人	80 人

2 防災学習の推進を図ります

今年度から、マイタイムライン作成等に加えデジタル技術の活用による AR ゴーグルでの浸水疑似体験等を実施するなど、より実践的な出前講座や防災学習を積極的に進めており、引き続き、若年層から高齢者まで防災意識の一層の高揚に努めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
マイ・タイムライン講習会開催数	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	2 回	11 回	12 回

3 災害に対し強靱なまちづくりを進めます

ブロック塀等の撤去、建築物の耐震診断、木造住宅耐震改修について補助事業を実施し、高梁市耐震改修促進計画に基づき広報誌やホームページで撤去・耐震診断・耐震改修の啓発及び補助事業の案内をしている。市民からの相談が少ないため、市民の関心が高まる取り組んでいく。

大規模盛土造成地が県の第一次スクリーニングで9箇所抽出され、令和4年度に第二次スクリーニング計画策定で現地調査・簡易地盤調査を実施して8箇所は経過観察、1箇所は切土で調査範囲から除外した。今後大きな変化が見られた場合は調査を検討していく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
公式ツイッターフォロワー数	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	400 件	947 件	2,500 件
防災訓練参加者数 (5年間累計)	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	200 人	1,080 人	1,500 人
危険なブロック塀等の解体撤去の件数 (累計)	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	0 件	1 件	50 件
大規模盛土造成地の安全把握調査 (第2次スクリーニング)	令和元年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	0 箇所	0 件	9 箇所

4 国民保護計画を推進します

国民保護情報（Jアラート）の伝達手段の確保及び維持管理に万全を期し、住民参加の防災訓練の検討を進める。

5 消防、救急、救助体制を強化します

市民における防火防災に関する意識や行動力を高め、火災や災害に強いまちづくりを推進するため、予防広報を含め多方面な方策により査察業務の強化を図っていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
普通救命講習受講者	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	300人	146人	400人
防火対象物及び危険物施設査察率 （査察件数／査察計画数）	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	47%	17%	100%

6 災害時避難行動要支援者への支援体制を強化します

令和5年3月現在で医療機関、社会福祉施設等と協定締結し、6施設を福祉避難所として確保しているが、市街地での福祉避難所の確保ができていないため、市街地における福祉避難所の確保に向けた働きかけをしていく。

重要業績評価指標（KPI）	計画策定時	実績値	目標値
福祉避難所設置数（累計）	令和2年度	令和4年度	令和7年度
	6施設	6施設	12施設

横断的政策 3 未来革新技術を活用します

施策 1 Society5.0 の推進

1 情報通信基盤を整備します

令和 4 年度でケーブルテレビ網の幹線光化は完了し、市内全域で超高速インターネット環境の整備が完了した。今後は、吉備ケーブルテレビと連携し、サービスの向上等を図り、ケーブルテレビ及びインターネットの加入促進に努めていく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
ケーブルテレビ加入率	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	74%	72.6%	74%

※現状値加入率は、ケーブルテレビ運営事業者がとりまとめた数値を掲載

2 デジタル化を推進します

市民が必要とする子育て、介護関係の 26 手続や住民票等の申請をオンラインでも完結できるよう取り組んだ。今後は、受け取った電子データを効率的に活用できるよう検討を進めるとともに、利用者にとっての価値の高い手続きをオンライン化できるよう、UX (ユーザー体験) の高い申請フォームの作成・作成支援を行っていく。

また、業務効率を図るため、あるべきプロセスを制度・体制・手法を含めて一から検討する BPR (業務改革) に取り組んでいく。

重要業績評価指標 (KPI)	計画策定時	実績値	目標値
行政オンライン化手続数	令和 2 年度	令和 4 年度	令和 7 年度
	4 件	6 件	49 件

※目標値は、国の「デジタル・ガバメント実行計画 (令和 2 年 12 月 25 日閣議決定)」による数。ただし、都道府県手続き、高梁市にない手続きは除く。

3 スマートシティの実現をめざします

DX 推進アドバイザーの協力を得ながら、様々な分野における施策目的・課題を整理し、課題解決の手段としてデジタルツールを活用した。高梁川流域連携事業や民間事業者と連携した高齢者等を対象にしたデジタルデバインド対策としてスマホ教室に取り組んだ。

今後は、高齢者等を対象にしたデジタルデバインド対策を継続していくとともに、デジタル人材の育成、拡充を図っていく。

令和5年度施策マネジメントについて

1. 施策マネジメントについて

「高梁市総合計画」には、高梁市がめざす都市像「健幸都市たかはし」の実現に向けた「基本理念」や「基本方針」、これらを実現していくための「政策」やそれを支える「施策」、その展開方針が示されています。

また、「基本構想の推進方針」の一つとして、次のとおり「評価・検証の方針」を定めています。

5. 評価・検証の方針

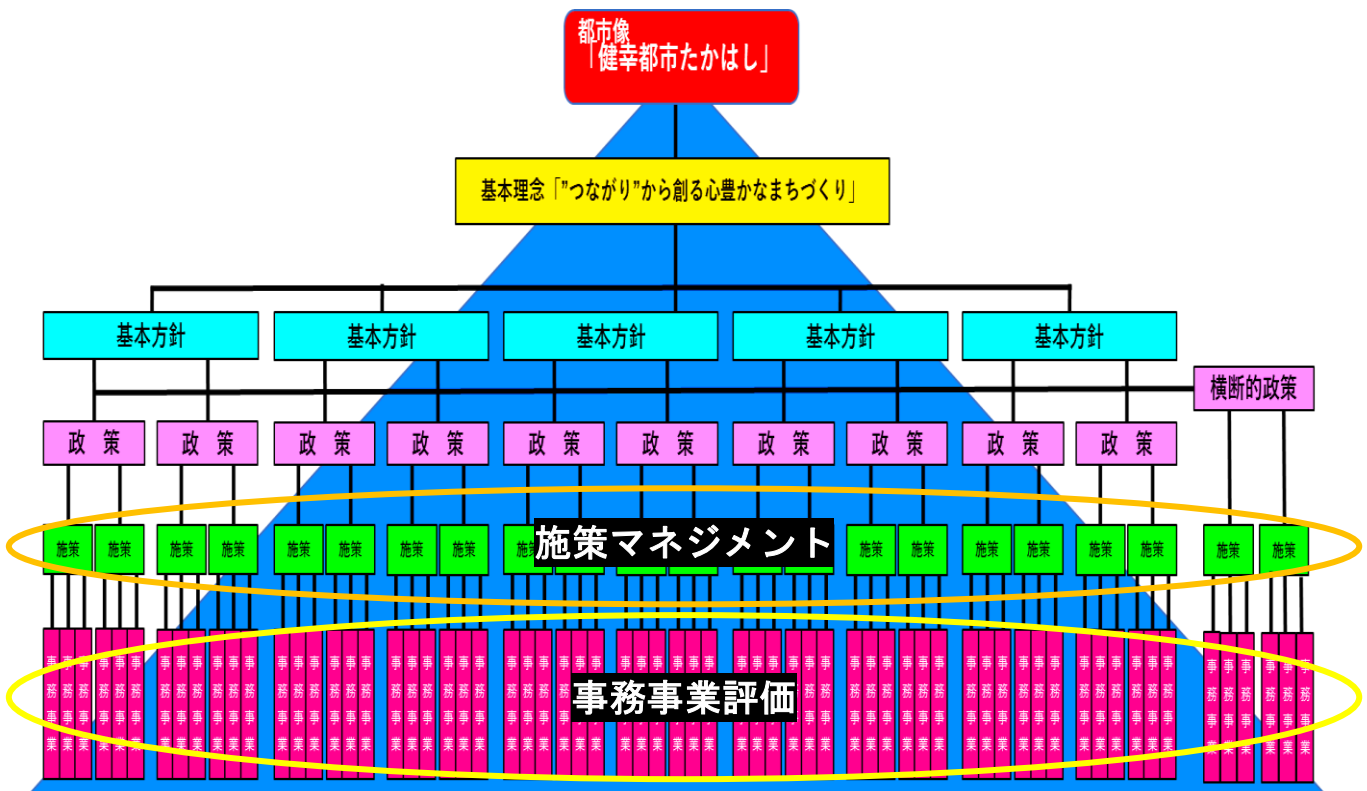
基本計画において、都市像及び長期人口ビジョンの達成状況を測るための基本目標指標を定めるとともに、この基本目標指標の達成に向け、各施策の効果を客観的に検証できる指標（重要業績評価指標）を定めます。

この基本目標指標と重要業績評価指標の達成状況を毎年把握し、庁内及び外部有識者会議での評価・検証も踏まえて、必要な見直しと改善を図り、翌年度への事業実施に活かしていくPDC Aサイクルを確立します。

「施策マネジメント」とは、「政策」を具体化して、各分野の方向性を示す「施策」について評価する制度のことです。毎年、「施策」の進捗状況の評価・検証し、今後の方向性を決定するもので、「事務事業評価」の基になる評価のことです。

総合計画では、「基本方針」の下に「政策」が、「政策」の下に「施策」が、「施策」の下に「施策の展開方針」が掲げられ、その下に様々な「事務事業」が連なっています。

「事務事業」の成果の一つひとつが「施策」の成果につながり、「施策」の成果の一つひとつが「政策」の成果へとつながり、最終的に都市像である「健幸都市たかはし」の実現をめざします。



2. 施策マネジメント実施の目的

(1)PDCAサイクルの定着

前期基本計画で定める「めざすまちの姿」や「目標指標」の達成に向け、P（計画）D（実行）C（評価）A（改善）サイクルの定着をめざします。

(2)施策の着実な推進

解決すべき課題や見直すべき事項等を整理して、事業の推進や予算編成に反映することで、施策の方向性に沿った事業展開を図ります。

(3)透明性の高い行政運営

施策の評価・検証に市民が参画する仕組みを構築するとともに、毎年、施策の進捗状況を公表し、市民と情報を共有化することにより、透明性の高い市民協働の行政運営をめざします。

(4)目的意識を持った業務遂行

施策の目標や課題、進捗等を組織で共有するとともに、「めざすまちの姿」を再確認・再認識することで、職員一人ひとりが常に目的意識を持って業務を遂行することをめざします。

3. 施策マネジメント実施の流れ

6月～

8月 施策マネジメントシートにより、各施策の担当課で進捗状況の評価・検証を実施

9月 6日 施策の進捗状況について、総合戦略推進本部（本部長：市長、部長級職員で構成）で協議

10月5日 高梁市まち・ひと・しごと総合戦略有識者会議（各種団体代表者等で構成）に進捗状況を報告し意見聴取を実施。

10月 有識者会議での意見を担当課にフィードバック。
「施策の進捗状況」について、市HPで公表。

10月～

11月 「施策マネジメント」及び「事務事業評価」の結果を基に、各所属において次年度予算編成